今月の一品 令和 3(2021)年 4 月

飯能市立博物館
きっとす
今月の一品

飯能市立博物館

埼玉銀行創立 20 周年記念てぬぐい

引間 隆文

現在開催中の収蔵品展「てぬぐいの中の飯能」では、飯能ゆかりのてぬぐいを展示していますが、スペースの都合で展示できなかった資料の中からとっておきの一品をご紹介します。

このてぬぐいは、埼玉銀行(現・埼玉りそな銀行)が創立 20 周年を記念して昭和 38(1963)年に配ったものです。

「サイギン」の愛称で親しまれた埼玉銀行は、昭和 18(1943)年に埼玉県下の 4 銀行(武州銀行、第八十五銀行、忍商業銀行、飯能銀行)が合併して誕生しました。

埼玉銀行の前身の一つである飯能銀行は、明治 34(1901)年に飯能で設立された銀行です。設立時の資本金は 50 万円でしたが、これは当時県下最大規模の第八十五銀行と同等であったことから、かなり驚かれたようです。

その後、飯能銀行は規模を拡大していきましたが、経営状態は厳しいものがありました。

かつて埼玉県内には小規模銀行が乱立していました。例えば、大正 5(1916)年の飯能町には、既に 4 行が営業していたにもかかわらず、更に武蔵銀行が設立されたため、飯能銀行は打撃を受けています。

大正 7(1918)年、岡田忠彦県知事の主導で武州銀行が浦和に設立されました。県がバックの大銀行誕生により、武州銀行を軸とした銀行の整理・統合が進むのですが、この「統合劇」を指導したとされているのが、今年の大河ドラマの主人公・渋沢栄一です。栄一は、埼玉の銀行界の将来を憂い、ひそかに岡田知事に働きかけたとされています。なお、武州銀行の初代頭取には、栄一のいとこであり飯能戦争では振武軍の幹部として戦った尾高惇忠の息子・次郎が就任しています。

1 枚のてぬぐいから、ついには渋沢栄一にたどり着きました。強引に大河ドラマにあやかった感もありますが、資料を深掘りする面白さを感じていただけたら幸いです。(民具 No.5170)